

創作劇委員会の活動

活動概要

- 大垣人権擁護委員協議会では、こども園・小学校での「人権教室」は、創作劇を中心に実施しています。
- 平成14年頃から、5～6名ほどの人権擁護委員が、紙芝居等で幼保園へ出向いて人権教室をしたことから始まり、現在に至っています。
- 令和2年度からは、「特別委員会」として組織を確立し、各市町から依頼を受けたこども園、小学校へ計画的に創作劇の上演を実施しています。
- 任意の活動ではありますが、全市町の協議会委員の中から、現在25名（令和8年度）の人権擁護委員が活動しています。
- 各市町で行われる「人権教室」の活動は、劇を披露することだけが目的ではなく、人権擁護委員の存在を知ってもらうための活動でもあるため、こどもの人権SOSミニレターやこどもの人権110番、人権書道作品募集の周知も行っています。

令和8年度の活動状況及び予定

こども園での上演・・・6園（6月～7月実施）

小学校での上演・・・13校（10月～12月実施予定）

演目の紹介

	演 目	主な内容と作品に込めた願い
こども園用	「そうさんのおはな」 (10分)	そうさんの鼻が長いことをからかっていた動物たち。自分たちもそれぞれ違いがあることに気付きみんなで助け合って暮らす大切さを知って欲しい。
	「いちばんえらいのはだぁーれ？」 (17分)	色々な職業があり、どの職業も大切であることに気付き、互いの良さを大切にすることを覚えて欲しい。
	「だいじょうぶ だいじょうぶ」 (18分)	祖父と孫との関わりの変化や成長を通して、互いを思いやる事の大切さを知る。 「だいじょうぶ?!」という言葉の素晴らしさにも気付いて欲しい。

小学校用	「りくくんのすてきなあし」 (20分)	自分の身体の一部が他の人と違うことに気づき、友だちの何気ない言葉に傷ついた“りくくん”。人と違っても、自分や他人のことも大切にし、応援できる気持ちをもって欲しい。 (パワーポイントによる朗読劇)
	「ぼくのいのち」 (20分)	自分の命はかけがえないものであり、また周りの人の命も同じように大切であることに気付いて命の尊さを知って欲しい。 (パワーポイントによる朗読劇)
	「盲導犬ハッピー」 (17分)	障がいのある方も健常者と同じように日常生活を送っていることを知り、障がいについて正しく理解する。温かく寄り添い、互いが支え合う共生社会の大切さを知って欲しい。 (パワーポイントによる朗読劇)

上演中の様子

ぞうさんのおはな



衣装を着けての演技は、前が見えなくなることも…



頭巾をかぶって腰をおとして、皆んなでタイミングを合わせます

いちばんえらいのはだーれ？



白熱した演技！衣装の下は保冷剤入りベストが必須です

だいじょうぶ だいじょうぶ



「だいじょうぶ だいじょうぶ」とクライマックスシーン…子どもたちの真剣な眼差しに力が入ります

盲導犬ハッピー



声色を工夫して…役になりきっての朗読です

新演目制作に向けての取り組みと練習の様子

「りくくんのすてきなあし」

「そろそろ新しい演目を！」との要望を受けての始動です

令和7年 7月 新演目検討委員会の立ち上げ（11名）

10月 大まかなシナリオの作成

11月～ 道具作り

- ・平面ペープサート
- ・立体ペープサート
- ・布の背景
- ・縦型背景
- ・小道具（花、ボール、ランドセル、靴）
- ・立体ペープサートの顔



立体ペープサートのボディ



平面ペープサートの原画

令和8年 1月 シナリオの完成 → 劇委員全員に配布

1月～3月 動きのシミュレーション

3月 BGMの選曲とセリフの録音 → 業者へ作成を依頼

5月 「りくくんのすてきなあし」CD完成 → 各市町に配布

7月～8月 CDに合わせて動きの確認と練習

8月末 練習用DVDの作成



繰り返しセリフの言い回しや、
動きのシミュレーションを検討
しました



園庭での鬼ごっこ、りくくんと他の子どもたち
との走り方の工夫をして……



「おばあさんのシニアカーかわいいね」
「あのおねえさんどうして白い杖をもっ
ているの」……
立ち止まる位置を考えながら動きます



バーン、バシッバーン
車いすバスケットの迫力ある雰囲気を出すために
大きくカー杯動きます



りくくんとお母さんの悲しく切ない場面
長いセリフの間に二人の細やかな動きに
工夫をこらします

人権擁護委員それぞれの得意を生かしての道具作り、何度も意見を交わして協力し合って取り組みました。

劇の役割においても固定化せず一役に2～3名の委員が対応できるように練習を繰り返しています。

まだまだ不安はありますが、小学校での子どもたちの笑顔に会えるのを楽しみに、私たち人権擁護委員も楽しく演じたいと考えています。